

令和4年度 葛飾区学力調査（5年生）結果の分析

【国語】

- 「教科総合」「基礎」の両観点において、全国、区の平均を上回っている。特に、「応用」については区の平均を7ポイント上回っており、既習事項を活用しながら問題に取り組むことができたことが伺える。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、平均正答率が全国、区の平均より5ポイント程度上回っている。要点を意識しながら話したり、相手の意図をとらえながら聞いたりする力が付いてきたことが伺える。
- 「書くこと」の領域では、平均正答率が全国、区よりも7ポイント上回っている。登場人物の心情を読み取ったり、文脈に合う文章を記述したりする力が付いてきたことが伺える。
- 「読むこと」の領域では、平均正答率が全国、区よりも5ポイント上回っている。段落相互の関係を読み取り、文章の構成を理解することができたことが伺える。
- ▲「言葉・情報・言語文化」の領域では、平均正答率が区の平均を4.1ポイント、全国平均を2.9ポイント上回る結果となり、その他の項目よりも差が小さい。また、短答式の問題の正答率が低い。言葉の意味や活用方法について、日頃から意識して使用していくことや言語文化への興味関心を高める指導が必要である。

【算数】

- 「教科総合」「基礎」の両観点において、全国、区の平均を上回る結果となった。特に、「思考・判断・表現」においては、全国、区の平均を6ポイント上回った。問題に対して目的に合った表現方法を用いたり、解決の過程や結果を多面的に捉えて考察したりする力が身に付いてきている。
- 「数と計算」の領域では、平均正答率が全国、区よりも上回った。前学年までの知識・技能が概ね身に付いていることが伺える。
- 「データの活用」の領域では、平均正答率が、全国、区の平均を10ポイント上回っている。問題を解決する上で、表やグラフから情報を正確に読み取り、表現することができている。
- ▲「図形」の領域では、平均正答率が全国や区とほぼ同ポイントとなった。複合図形の求積方法を選択することや、平行の意味理解に課題が見られる。既習事項を想起させながら、様々な図形の性質や算数用語の理解を繰り返し指導していく。
- ▲「変化と関係」の領域では、平均正答率が全国や区とほぼ同ポイントとなった。表を用いて変化や対応の規則性を見出すことや、その規則性が他の数値の間においても通用するのか判断しながら、問題に取り組むよう指導していく。
- ▲「数と計算」領域で出題された「上から2けたの概数を求める」問題の正答率が極端に低く、全国平均を8ポイント下回っていた。前述した算数用語の意味理解に加えて、ある程度の反復練習も適宜取り入れていく。